

戦後沖縄をめぐる国際福祉相談関連資料群



平田 正代 資料集

Masayo Hirata



2023年度科学研究費助成事業・基盤研究(C)

「戦後沖縄における労働とジェンダーに関する基礎的研究」

(研究代表者 成定洋子)

はじめに

2022年4月22日、半世紀もの長い間、戦後沖縄の国際相談をけん引されてきた平田正代さんがお亡くなりになりました。享年82歳でした。平田さんは、1967年、27歳で、国際福祉相談所の前々身の国際社会事業団沖縄代表部（1958年設立）のケースワーカーとなり、無国籍児問題の解決と国籍法改正に尽力された後、1998年、最後の所長として国際福祉相談所を閉所されました。国際福祉相談所閉所後は、移管先となった沖縄県女性総合センター「ているる」の国際相談員として、2006年に退職されるまで、国際相談に大きく貢献されるとともに、後進の指導育成に力を尽くされました。そして、「ているる」退職後も、個別の多様な国際相談に親身かつ真摯に応じられるなど、最後までケースワーカーであり続けました。同時に、翻訳家、那覇地方家庭裁判所通訳人、沖縄県人材育成財団語学センター非常勤講師、美さと児童園相談員、クライスト・ザ・キングスクール高等部日本語講師、沖縄県医療福祉学院非常勤講師、大学の特別講師、さらに、在沖米軍基地内の国際結婚セミナー・カウンセラー、国際結婚ワークショップ・コーディネーター、異文化カウンセリングセミナー・コーディネーターとして、多彩な活躍をされてきました。

『戦後沖縄における国際福祉相談関連資料群－平田正代資料集－』は、戦後沖縄をめぐる国際福祉相談の軌跡を平田正代さんの歩みから明らかにするために、平田正代さんが所蔵されていたり、沖縄県公文書館に寄贈されたりした戦後沖縄における国際福祉相談関連資料群を軸に編まれました。左右・両開きによる四部構成となっており、左開きには第Ⅰ部から第Ⅲ部を、右開きには第Ⅳ部を配置しました。第Ⅰ部「著作・講演編」には、平田正代さんのこれまでの著作や講演の書き起こしなど、第Ⅱ部「関連資料編」には、国際福祉相談所や国籍法改正などに関する資料群、第Ⅲ部「追悼集」には、平田さんのご親族・同僚・友人知人から寄せられた追悼文、そして、第Ⅳ部「新聞記事・俳句・エッセイ編」には、平田さんが生前親しまれた俳句や俳句の同人誌『荒妙』に掲載されたエッセイを収めました。なお、本資料集第Ⅱ部に所収された関連資料のうち、沖縄県公文書館所蔵と記載されているもの以外は、すべて平田正代さんが所蔵されていたものです。

平田さんは、生前「沖縄人としての私の人生経験を本に記したい」と語っておられ（Keyso, Ruth Ann. 2000. “Masayo Hirata”, *Women of Okinawa: Nine voices from a Garrison Island*. Ithaca: Cornell University Press, p. 83）、平田さんに研究協力者としてご協力頂いていた科研費基盤C「戦後沖縄における労働とジェンダーに関する基礎的研究」（研究代表者 成定洋子）を通じて、平田さんと国際福祉相談に関する資料集を作成する予定でした。しかし、2018年に平田さんの年譜の一部を作成したものの、私の体調不良や新型コロナウイルスのため、資料集づくりが頓挫したまま、平田さんのご訃報に接することとなってしまいました。平田さん亡き後、互いの喪失感を分かち合いたいと、「ているる」の元同僚を中心に、城田由美さん、嘉手納美音さん、宮良綾子さん、棚原美菜子さん、仲村宮子さん、親川裕子さん、私の七名が集まるうちに資料集づくりを再開、兔年生まれで、うさぎとビールとキューモアをこよなく愛した平田さんに敬意を表し、ホップ・ステップ・ジャンプとビールの原材料の「ホップ」を掛けて「ホップスの会」と名付け、各編集作業を行いました。編集作業は、平田さんを偲ぶかけがえのない時間となるとともに、「国際」という言葉をめぐる平田さ

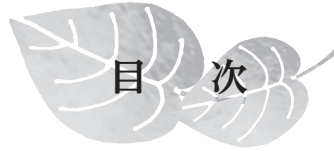
んの批判的な視点を改めて共有しながら、戦後沖縄における「国際福祉」「国際相談」とは何かという極めて重要な問いに共に向き合う過程でもありました。

「人の交流の結果としての国際結婚や離婚、そこから派生する諸問題は当事者の努力だけでは対応できない複雑なものが多く、市町村レベルで外国人との間の福祉、人権、法的身分、人さがし（中略）、外国よりの文書請求等につき相談窓口をつくる必要がある」、「政府がなすべきことはその受け皿づくりである」と1989年に平田さんは述べておられました（ケリー正代、1989年、「国際結婚と児童の国籍－戦後沖縄における駐留米軍軍人・軍属と沖縄女性との結婚－」、新崎盛暉・大橋薫、『戦後沖縄の社会変動と家族問題』、アテネ書房、304頁）。本資料集は、戦後沖縄をめぐる国際福祉相談に関わる資料の一部でしかありません。しかし、本資料集の一つ一つの資料やそれらと他の資料をつなぎ合わせてみることで、国際福祉相談所などの成り立ちやこれまでの経緯、国際相談の手続きや内容、国際相談連携ネットワークの在り様などを具体的に検証するだけでなく、戦後沖縄の国際福祉相談をめぐる諸資料をどのように公開・共有・活用していくべきなのか、そして、今後の「国際相談」はどうあるべきなのかという根本的かつ喫緊の問いについて真摯に考える必要性を示唆するものであるように思われます。

最後に、貴重な資料や写真をご提供頂いたご遺族、平田さんや国際福祉相談に関わる文書の転載をご快諾下さった個人や関係団体、追悼文を寄せて下さったり、助言・翻訳頂いた皆様、編集作業を担ってくれたホップスの会、そして、限られた時間の中で尽力下さった国際印刷の皆様、心より御礼申し上げます。なお、当初は、昨年三月刊行を目指していましたが、諸事情から一年後の発行となり、関係者の皆様にご心配とご迷惑をお掛けして誠に申し訳ありませんでした。また、紙幅の都合上、一部許諾を得ながらも割愛せざるを得なかった著作物がありましたこと、字が小さく読みづらいページがありますことをお詫び致します。

2024年3月

成定 洋子



はじめに

写 真	i
年 譜	v

第Ⅰ部 著作・講演編 1

・主要著作一覧	75
・主要講演一覧	76

第Ⅱ部 関連資料編 77

第1章

・国際社会事業団沖縄代表部・国際福祉沖縄事務所・国際福祉相談所の関連資料	77
--------------------------------------	----

第2章

・国籍法改正の関連資料	118
-------------	-----

第3章

・おきなわ女性財団の関連資料	127
----------------	-----

第4章

・女性フォーラム沖縄の関連資料	128
-----------------	-----

第Ⅲ部 追悼集 131

第Ⅳ部 新聞記事・俳句・エッセイ編 292 (1)

第1章

・新聞記事 (沖縄タイムス・琉球新報)	292 (1)
---------------------	-----------

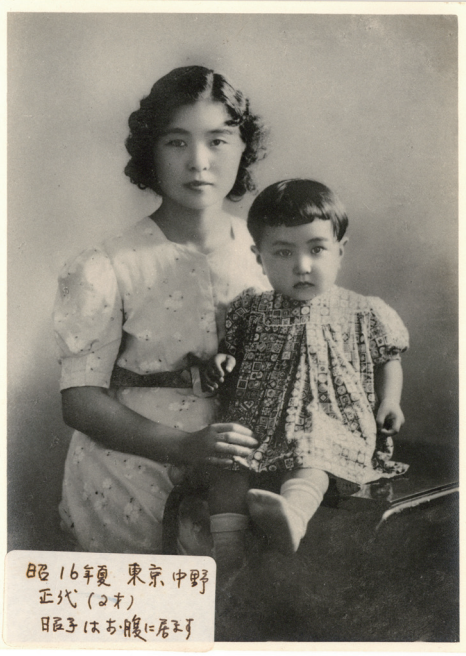
第2章

・俳句・エッセイ	209 (84)
----------	----------

* () 内の数字は、右開きからのページ数を記しています。



父 平田 忠義
母 平田 ヨシ



昭16年夏 東京中野
正代(2才)
昭子はお腹に居ます

昭和16年 夏 東京 中野
正代(2才)
昭子はお腹に居ます

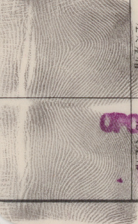


正代 昭子 昭和18年

正代 昭子(昭和18年)



STANDARD PASS 身分証明書		PASS NO. 番号 026123
NAME, LAST - FIRST HIRATA Masayo 2-154		
NATIONALITY 国籍 Japanyuan 女性 Sex 性別 Female		
AUTHORIZED ENTRY TO 出入許可 areas All unrestricted army		
PURPOSE OF ENTRY 目的 Program Aide.		
VALID FROM 有効期間 0700 to 1900rs 7 Mar 64		
EXPIRATION DATE 有効期限		
SIGNATURE OF BEARER 所持者署名 <i>M. Hirata</i>		
DATE ISSUED 発行年月日 14 Nov 63 sg		
FORM USARYIS 8 DEC 59 264		

DESCRIPTION OF BEARER 所持者様相			
DATE OF BIRTH 生年月日 6 Nov 39	HEIGHT 身長 5'0"	WEIGHT 体重 105	EYES 眼色 Brown
			HAIR 髪色 Black
		REMARKS 備考 Employed by United Svc. Organization	
UPON TERMINATION OF EMPLOYMENT PLEASE RETURN PASS TO PROVOST MARSHAL.			
PPRC, Japan			





平田正代 年譜

年 月 日		年齢	主なできごと
1939 (昭和14) 年	11月6日	0歳	父・平田忠義と母・平田ヨシの長女として、東京都に生まれる。
1946 (昭和21) 年	12月	7歳	名古屋から引揚船にて沖縄本島のインヌミ収容所へ。
1955 (昭和30) 年	3月	15歳	真和志市立真和志中学校卒業。
1958 (昭和33) 年	3月	18歳	沖縄県立那覇高等学校卒業。
	4月		早稲田大学第一文学部文学科英文学専修入学。
1960 (昭和35) 年		20歳	早稲田大学3年生のとき、安保闘争に参加。
1962 (昭和37) 年	3月	22歳	早稲田大学第一文学部文学科英文学専修卒業 (主査・大沢実、副査・野中涼の指導の下、卒業論文「マンスフィールド論」執筆・提出。坪内逍遙の孫弟子に当たる)。
1963 (昭和38) 年	4月	23歳	帰沖後、嘉手納基地の米国慰問協会 (United Services Organization, USO) の文化センター (Cultural Center) に就職。米軍関係者を対象とした、琉球舞踊や空手の催しなどを企画するプログラム・エイドとなる。
1965 (昭和40) 年	9月	25歳	米国・ニューヨーク州立大学バッファロー校社会福祉学修士課程に留学。
1966 (昭和41) 年	9月	26歳	琉球列島米国民政府 (United States Civil Administration of the Ryukyu Islands, USCAR) 広報局新聞課記者 (RGS-9) 教育局担当となる。
1967 (昭和42) 年	1月	27歳	国際社会事業団 (International Social Service, ISS)、沖縄代表部 (国際福祉相談所の前々身) のケースワーカーとなる。退職入職を繰り返し、約30年間、ケースワーカーや相談指導課長、所長として務める。
1972 (昭和47) 年	5月	32歳	那覇地方裁判所、及び那覇家庭裁判所の通訳人に登録。
1983 (昭和58) 年	3月	43歳	国籍法改正に関する中間試案についての大阪法務局の聴聞会において意見申述を行う。
1985 (昭和60) 年	4月	45歳	沖縄医療福祉学院非常勤講師 (～1995年6月)
1992 (平成4) 年	1月	52歳	老人保健施設シルバーピアしきな非常勤相談員 (～1994年4月)
1993 (平成5) 年	10月	53歳	沖縄県人材育成財団語学センター非常勤講師 (～2009年3月)
1996 (平成8) 年	7月	56歳	国際福祉相談所第6代所長に就任。
1997 (平成9) 年	2月	57歳	米国政府や米議会などに在沖米軍基地問題の解決を訴える女性訪米団 (団長・東門美津子副知事) に参加 (国際福祉分野担当)。
1998 (平成10) 年	3月	58歳	国際福祉相談所の最後の所長として同所を閉鎖。
	4月		国際福祉相談所の移管先となった沖縄県女性総合センター (現・沖縄県男女共同参画センター) 「ているる」相談室の嘱託相談員となる (～2006年3月)。
1999 (平成11) 年		60歳	『平成11年度米軍基地から派生する女性の諸問題調査事業』(財団法人おきなわ女性財団発行) の作成に携わる。
2001 (平成13) 年	1月	61歳	沖縄県が『日米結婚・離婚・子どものためのハンドブック』初版を発行、編集作業に携わる (その後も2020年度改訂版まで編集作業に関わる)。
2006 (平成18) 年	3月	66歳	沖縄県男女共同参画センター「ているる」相談室を退職。
2011 (平成23) 年	6月	71歳	日本政府がハーグ条約締結に向けた法案作成を始めたことから、「ているる」元相談員らとともに「女性フォーラム沖縄」を発足、代表を務める。
2015 (平成27) 年	10月	75歳	おきなわ女性財団主催「ギャラリーリレートーク 戦後70年 過去から未来へ/次世代の女性達へ伝えたいこと」にパネリストとして登壇 (コメンテーター: 大城貴代子、パネリスト: 平田正代、仲井間文子、安里和子、吉川文子、大城光代)。
2021 (令和3) 年	11月	82歳	沖縄県男女共同参画センター「ているる」においておきなわ女性財団スタッフを対象に講話を行う (最後の講話となる)。
2022 (令和4) 年	4月22日	82歳	永眠、享年満82歳